

浜名湖の漁業再建と輸出産業創出に向けた ノコギリガザミの種苗生産及び養殖技術の開発

(予算区分 研究費 研究期間 2024～2026 年度)

担当：水産・海洋技術研究所 深層水科 清水一輝・稲葉晃誠
開発加工科 望月万美子

【研究の背景とねらい】

- ・浜名湖では多くの魚種の漁獲量が低迷する中、ノコギリガザミの漁獲量は高位安定で、認知度向上により、販売単価は増加傾向にあります。
- ・漁業者等からは漁獲量の更なる増加を期待し、種苗放流数の増加要望があるが、種苗生産過程で、壊死症や過剰発育を伴う脱皮不全による大量斃死が常態的に発生し、量産化の妨げとなっています。
- ・一方、海外では脱皮直後のノコギリガザミ（ソフトシェルクラブ）の世界的需要が高くなっていますが、主産地である東南アジアでは天然資源に依存した養殖生産量は頭打ちで、複数の企業から人工種苗による養殖技術開発の要望があります。
- ・そこで、種苗量産技術を開発し、安定的な放流・養殖用の種苗供給体制を確立するとともに、収益性のある養殖技術の開発を行います。

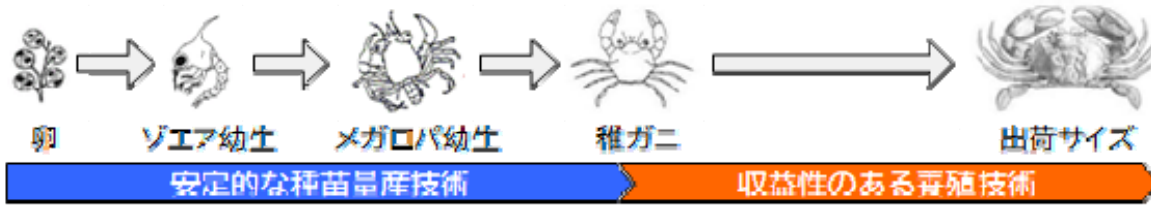


図 成長段階における解決すべき技術課題

【期待される効果】

- ・開発した種苗量産技術を温水利用研究センターへ技術移転することで速やかな現場実装が可能となり、令和9年度以降、安定して10万尾以上の放流を実現させます。放流数が増加することで、漁獲金額が増加し、収入源が減り苦境にある浜名湖の漁業の再建に貢献できます。
- ・確立した養殖技術は、本研究を連携して行う民間企業と共有し、県内に新たな海洋産業として、ノコギリガザミの養殖業を創出します。

【年次計画】

細目課題	2024年度	2025年度	2026年度	研究内容
1 種苗を安定的に量産する技術の開発	○	○	○	・壊死症を予防する防疫管理方法の確立 ・過剰発育を予防する種苗生産条件の検討
2 産業化に向けた養殖技術の開発	○	○	○	・養殖設備の開発に向けた研究(餌料の最適化など) ・脱皮制御技術の開発

(作成 2024年4月)